

部活・サークル

体育系

(体育会所属)



- ◆ 硬式野球部
- ◆ 準硬式野球部
- ◆ 女子バスケットボール部
- ◆ 女子バドミントン部
- ◆ 女子バレーボール部
- ◆ 女子ハンドボール部
- ◆ 女子ラクロス部
- ◆ 体育会
- ◆ 男子バスケットボール部
- ◆ 男子バドミントン部
- ◆ 男子バレーボール部
- ◆ 男子ハンドボール部
- ◆ 卓球部
- ◆ ダンスサークル【MOVE】
- ◆ 軟式野球部
- ◆ 北海道教育大学札幌校弓道部
- ◆ 北海道教育大学札幌校剣道部
- ◆ 北海道教育大学札幌校硬式テニス部
- ◆ 北海道教育大学札幌校ソフトテニス部
- ◆ 北海道教育大学札幌校サッカー部
- ◆ よさこい部
- ◆ 陸上競技部

特集二

北海道教育大学札幌校 部活・サークル紹介

〜未来へつながる先輩・後輩の絆〜

2015年の

文化系

(体育会に所属していない
運動系の団体を含む)



- ◆ あいの里あそびの教室
- ◆ あいの里大自然はらぺこ学校
- ◆ アカペラサークル 【Kapel a】
- ◆ 演劇集団空の魚
- ◆ カードゲームボードゲーム
研究会 【DICE】
- ◆ 仮装大賞サークル
- ◆ 空手道部
- ◆ 教育研究会
- ◆ 国際交流サークル 【minapa】
- ◆ さつきようTRPG同好会
【Caesar】
- ◆ 札幌バレーボールサークル
- ◆ 茶道部
- ◆ サバイバルゲームサークル
- ◆ 自治会準備会
- ◆ 児童文学研究会
- ◆ Chi ffon
- ◆ 写真部
- ◆ Jazz 研究会
- ◆ 手話サークル 【Karip】
- ◆ 少林寺拳法部
- ◆ ずんがりセツルメント
- ◆ 生協学生委員会
- ◆ FOLK-IN
- ◆ フットサル部
- ◆ フットサルサークル
- ◆ 北海道教育大学管弦楽団
- ◆ 北海道教育大学札幌校混声合唱団
- ◆ 北海道教育大学札幌校連合吹奏楽団
- ◆ 北海道教育大学天文同好会
- ◆ マジックサークル 【mageia】
- ◆ 漫画・イラスト研究会 【CADUCEUS】
- ◆ マンドリンクラブ
- ◆ みちのくkids
- ◆ Music Explosion
- ◆ 夢をつむぐBieds
- ◆ ワンダーフォーゲル

(五十音順)

部活・サークル 今・昔

大学在学中に部活・サークル活動に取り組んできた先輩と、現在大学で活動中の学生からそれぞれの思い出を寄せていただきました。



野球部

教員

**厳しさと温かさ、そして絆
野球部での貴重な経験**

平成二年卒

小野 純一

小学校三年生の時から続けてきた野球。大学に入学する前は、高校時代で野球生活に終止符を打とうと一時は心に決めていたのですが、野球を忘れられ

なかったこと、充実した大学生活を送りたいという一心から入部を決意しました。その決意

が自分にとって本当によかった二十有余年という時間が過ぎ、教職に就いている現在、心に強く感じます。

緊張して入部した初日から温かく迎え入れてくれた当時の諸先輩方、いつも苦勞を共にしてきた同期や後輩方、野球部内ではもちろん

ですが、他の部とも仲が良く絆を深められた四年間の野球部での数々の経験は、自分自身に決して忘れられない貴重な体験となっています。

☆共用で使用していたグラウンド

一年生の時は附属小中学校と共用での狭いグラウンドで練習を行っていました。放課後に小中学生が使用していると使用できず、使用できてもサッカー部や陸上部と一緒に練習することが多く、外野に飛んだボールをよく他の部の皆さんが拾ってくれたものでした。私たちの時代は大学の引越の時期にあたっていたので、今の校舎

でのグラウンドでの練習も経験できました。無風の日はなく、毎日強い風のある中を練習に明け暮れたことを今でもよく覚えています。

☆部室のついで宿所

部室は野球部だけの部室でしたが、校舎の南側、敷地の南西にあり、合宿所はグラウンドのすぐ近くにありました。今にも壊れてしまいそうな古い小さな小屋で、これも古いサークル会館の廊下を通じて部室とグラウンドを行き来していました。布団部屋に入るには勇気が必要でした。

☆練習量と飲水量

他部には負けるなというのが先輩からの教えでした。夏合宿や冬場の旭山公園までのロードワーク、伏見稲荷タッシュなど、とても厳しい練習でしたが、楽しさや温かさがある中で練習だったので全く苦ではありませんでした。合宿やリーグ戦の打ち上げには集まってくださったお客さんにとことん楽しんでもおつという先輩方の心遣いを強く感じたものでした。

昨年、紫藻云(野球部OBの会)が創設六十周年を迎え、当時の先輩方にも久しぶりの会合がありました。長い時間が経った今も先輩・後輩のつながりは消えることはなく、深い絆で結ばれていることを再確認できました。いくつ歳を重ねてもその時の時代に戻れるつながりをもっといらいらすることが何よりの財産です。



教諭 白球を追い続け、汗を流した日々

昭和六十二年卒
田中 由美子

いつかやってみたいと思っていたバレーボール。「大学から始めるのは……。」と気後れしていた私でしたが、「私も初心者だよ。一緒に入らないか？」という友人の言葉に励まされ、女子バレーボール部に入部。その日から、白球を追い続ける日々が始まったのです。

体育のときくらいしかバレーをやったことのない私に、先輩たちが手取り取りバレーの基礎から教えてくれ、そのおかげで少しずつプレーできるようになってきました。また、女子バレー部は男子バレー部とも仲がよく、一緒に楽しみながら練習することができました。先輩や同じ学年の仲間、そして、後輩と白球を追い続けた4年間は、私にとってとても思い出深いものになっています。

★部活は、附属小の体育館？

まだ藻岩の麓の旧校舎で体育館が小さかったため、バレー部は近くにある附属小学校の体育館を借りて行っていました。冬は、行き来が寒かったなあ……。

★部室？それとも物置？

部室は、サークル棟の一階。とても古く、建物で、暗くなると一人では行けません。狭い部室、カーテン一枚で隔られたスペースで着替えをしていますが……。

★日々の思いを綴ったノート

部室には、(確か)『よいこのバレー部ノート』が置いてあり、ちよっとした時間、部員がメモ書きをするノートがありました。バレーのことに限らず、いろいろな話題が書かれているノートは、みんなの交流ノートになっていました。

★涙の入れ替え戦

なかなか1部に行けなかった私たちの時代。1部に昇格するチャンスだった北大との入れ替え戦。でも、残念ながら負けてしまいました。あそこ先輩たちが流した涙。その後、1部への昇格は、後輩たちが叶えてくれました。

卒業後も、しばらくはOGチームを作り、バレーに親んでいましたが、それそれ仕事が忙しくなり、解散してしまいました。

でも、先輩・後輩のつながりは消えることなく、3年前から当時の女子バレー部の1、4年生が集まる会が発足されました。みんな年はとりましたが、大学の頃の楽しい雰囲気は、変わっていません。ただ変わったのは、集まった時の話題が、健康のことや親の介護のことになったことでしょうか。大学の部活を通じたこの素敵なつながりは、これからもずっと続くことでしょう。



バレーボール部

学生

日々精進

平成二十九年卒業予定
加地 由佳

現在、女子バレーボール部は選手八人、マネージャー三人で活動しています。昔は部員数も多かったようですが、数年前から入部者が減り、今では一学年に二、三人という状況です。しかし、少ないながらも練習メニューを工夫することで一人ひとりの技能を高めたり、コミュニケーションをたくさん取ったりすることで仲の良いチーム作りにつながっています。

物品いっぱい

女レロッカー

学内の個人ロッカーと同じ場所に部活ごとにロッカーが設けられています。そこには、ティッシュやテーピング、ユニフォームの他にも、過去の大会要項やスコアなどが入っています。とても綺麗とは言えませんが、女バレーの歴史を振り返る大切なものたくさん詰まっています。

努力の証、女レノート

昔、ノートを綴っていたように、私たちも練習後にマネージャーが毎回ノートをつけています。練習メニュー、個人やチームの反省、今後の活動などを細かく記録することで、練習の質の向上を図ることに、ノートの写真をLINEで共有

することで練習に参加できなかった人もその日の状況が分かるようになっていきます。過去のことを振り返り、自分たちの現状を知る上で欠かせないもののひとつです。

六人ギリギリ……

先程も述べたように、現在女子バレーボール部は選手が六人という試合に出られるギリギリの人数で活動しています。また、実習やケガで部活に参加できない人もいるので、毎回練習人数は三、四人ととも少なく、六人揃って練習することはほとんどありません。また、長期休暇中は帰省も重なり、二人でやるなんてこともありました。四年生が引退してしまつと、公式戦に出られなくなってしまうので、部員集めも頑張っています。

ヒデオで研究

練習試合や公式戦でヒデオを撮り、試合前と試合後にみんなで見て研究しています。また、最近では通常の練習でもヒデオを活用し、自分のクセを見つけたら、手本となる人の動きを映したりしてみんなで見ています。

今後の目標は

次のリーグで三部昇格することです。目標達成のためこれから一生懸命練習していきたいと思っております。



教頭

It's

Thursday Night

昭和六十二年卒

千葉 一博

札幌校には、当時三つの軽音楽サークルがありました。ME（ミュージックエクスプローション）・JAZZ研究会、そして、我がFOLK（フォーク）ン。私が在籍した四年間は、三十人ほどの仲間、活動をしていました。たかが音楽でこれと音楽…今思えば「若気の至り」に溢れていましたが、心から音楽に没頭した日々でした。

たしか…元石炭小屋

部室は、校舎東側駐車場側にある木造の古い小屋でした。平日は、午後五時から九時まで練習可能でしたが、講義の合間・お昼時間・深夜…、いつも入り浸る居心地のいい場所でした。元石炭小屋だったほろい建物で、鍵も南条錠一つだけという状態でした。今から考えると、ほぼノーセキュリティでしたが、盗難などもなく良い時代だったと思います。

例会

毎週金曜日は「例会」が行われました。部長を中心として、普段の練習時間調整や学校祭・定期演奏会の計画、様々なサークル運営上の問題点を話す場でした。出席は必須、お昼ご飯等もこの外で真面目に語り合っていました。周りからは宗教団体って揶揄されるほど…ここだけは重宝されました。

ロンパはジャンクバンド

定期的「ロンパ（飲み会）」を部室で行いました。女子は家庭よりおじぎのや料理を持ち込み、男子は飲み物を調達する

というのが役割分担でした。学生故にお金が無い…大活躍していたのが「ジャイント瓶」と呼ばれるビール。一リットル入りで存在感のある頼もしいビールでした。それが何本も空いたのですから、体力があっただのですね。でも、大量の瓶運、どうやって片付けていたのだった…。

一番座っていた場所

私はドラマーでしたが、人数が少なぐ掛け持ちで幾つかのバンドに加入していました。学校祭の時などは、四つも五つも掛け持ちしていたので、何時間も練習が続くことがありました。考えてみたら、四年間で最も長い時間座っていたのがドラムの椅子だったと思います。私のバンドの練習は木曜日が定番でした。木曜日はバンドで唯一座り、メンバー全体を俯瞰する風景の中で体も心も音楽に浸っていました。

先日、九年ぶりにライブを行い短い時間でしたが久々にドラムの椅子に座りました。二十年ぶりに再会した仲間もいました。今は、職員室が最も長く座る場所になりましたが、時間を上手に使って、音楽に浸る時間を少しでも増やしたいと考えています。



2015/08/22 at Krapsh-Hall

FORK-IN

学生

Folk-in に入部

平成三十年卒業予定 野村 みゆき

大学に入学して、なにかサークルに入りたいなと思って新入生歓迎会に参加し、この軽音楽サークルFOLK-INに出会いました。大学から始めるのは…と気後れしていましたが、同じ専攻の初心者の方達がたくさん入部してくれて、みんなで一緒にがんばらそう…ということから、FOLK-INに入部。それから、それぞれバンドを組んで、ライブに向けて練習して、ライブをして、という日々が始まりました。

サークルの先輩がたくさんいて、まずはひとの顔と名前を一致させることから始まり、楽器の基本的なことをいろいろ教えてもらったり、品評会をやって聞き方をちよつと学ぶといった。最初の頃は忙しい日々でしたが、一年生は夏休み前、お披露目ライブがあり、それぞれ練習した成果を学校みんなに見てもらいました。初めてのライブで、緊張がすごくて、終わった後もしばらくフワフワした気持ちだったのを覚えています…。

★例会

毎週金曜日の四時三十分から、サークル会館の練習室で例会をやっています。

基本的には全員参加するよう義務づけられていますが、週によってかなり人数にばらつきがあります…。ただ、サークル員は全員集まると五十人になり、練習室はかなり小さいので、全員が集まれば練習室はパンクします。

★ライブ

春は新入生歓迎ライブから始まり、初夏ライブ、お披露目ライブ、パンチライブ、学校祭、オータムライブ、クリスマス、定期演奏会、裏定期演奏会、卒コンなどその他たくさんライブを学内、学外でやっています。卒業生もたくさん来てくれて、応援してもらったり、たまに厳しいコメントをもらったりします。

このサークルで出会った人全員との関わりが、これからの大学生活、卒業後も、続いていけたらいいと思います。毎年新しい出会いと別れがあって、必ず卒業式では泣くし、新入生歓迎会では新入生に緊張してしまつし、練習が忙しいときは授業そっちのけになっちゃつし、かなりいろいろあるサークルですがわたしはFOLK-INに入部してよかったと思っています。これから入ってくる人にもそう思ってもらえるサークルにしたいと思います。



教諭

つながり

〜同じ志をもった仲間達と共に〜

平成十二年卒

薄田 和弥

大学の部活動

私が一年生として入学した際、札幌大は二部リーグに所属し、前年度には一部リーグとの入れ替え戦を戦うなど、部員数は比較的少数ながらも、非常に熱心に活動をしている部活動でした。四年生一名、三年生四名、二年生一名、そして私を含めた一年生三名の計十名でスタートした大学の部活動は、練習は厳しくもとても充実したものとなりました。練習はほぼ毎日あり、人数も少数だったため体力的にはハードでしたが、その分先輩たちには非常によくしていただき、恵まれた環境でバスケットをすることができていたと思います。また、毎週のように札幌大バスケットボール部のOBチームである北籠クラブの皆さんと合同練習をさせていただき、OBの先輩たちにもとてもお世話になりました。また、現シニアバスケットボール連盟の会長である荒沢與志夫先生にも、学生時代には本当にお世話になりました。

バスケットは

部活動の思い出はやはり、各種大会での試合です。私は大した実力もなく、先輩方の力にはなれませんでした。それでも試合は楽しく、試合に出場できなかったり、負ければとても悔しい思いをしたりしたのである程度覚えています。少しでも他の部員に追いつくこと、一講目が終わったあとの昼休みに自主練習をし

たり、長期休業中の体育館割りで最後の時間帯が空いていれば夜一人体育館へやってきて練習をしたりしていたのもよい思い出です。大会で遠征をした際には、先輩方と食事をしたり、開催地の観光をしたりもしました。バスケットだけでなく、先輩方と多くの時間を共有することができたことは、本当に幸せなことだったと感じています。また、女子バスケットボール部でも仲が良く、バスケットに真剣に向き合い、ためまぬ向上心をもった仲間と出会うことができたことも私にとっては大きな財産です。

私は北籠クラブには所属していないので、現在の部活の後輩たちとは残念ながら交流はありませんが、とても熱心に活動が続けているという話を聞いています。年の近い後輩とは、今でも中学校の部活動の指導を通して様々な話をしますが、皆本当に一生懸命です。先輩たちと一緒に活動した中で学んだこと、後輩たちと触れ合っただけで感じたことを、これらの教員生活に生かすことも、素晴らしい後輩たちのこれから活躍を心から願っています。



バスケットボール部

学生

札幌女バス一部 昇格までの道のり

平成二十八年卒業予定

山口 みのり

小学校四年生から始めたバスケットボール。高校で辞めようと考えていましたが、入学した大学に高校のときのバスケット部の先輩が入っていることを知り、『せっかくなので続けてきたバスケットボール、辞めたらもったいない!』

と思い、一年目の四月、女子バスケットボール部に入部しました。

当時のバスケット部の成績は二部リーグの七位か八位で、三部との入れ替え戦に行っているようなものでした。部員の数は選手十五人、マネージャーが二人と大規模ではありませんが、コーチ不在の中、自分たちで一生懸命練習していました。

当時の四年生が卒業して、三年生がいなかったのが一年生と二年生だけが残り、これからのチームについて話し合いました。当時のキャプテンの意向で、コーチを誰かに頼んでもっとレベルアップ

しようという話になりました。これが、一部昇格の第一歩でした。

当時の男子バスケット部のキャプテンで、引退した四年生が私たちのコーチを引き受けてくれることになりました。教育大の大学院に行くことが決まっていたので、ここから二年間、私が四年生になるまでという期間の契約でした。



教諭

できたばかりのハンドボール 〜ハンドボール部の成長〜

平成二十年卒

桑原 俊行

おそろしくこの文章を読んでいる方々は、札幌にハンドボール部があることをご存じない方が多いと思います。高校時代ハンドボール部に所属していた私は、大学でも続けたいと思っていました。しかし、大学パンフレットにもホームページにもハンドボール部は載っていません。「部自体がないんだなあ、さてこのサークルに入るか…」と考えていた新入生歓迎会、行ってみるとなんとハンドボール部がある。札幌大ハンドボール部は、私の二つ上の先輩が立ち上げ発足したばかりでした。

ハンドボールは一チーム七人で行うのですが、その時部員は五名しかおらず、人数が足りないまま試合に出ていたというのです(そんな様子を見て大会では会場中が札幌の味方だったそうです)。私の代は私を含めて三人入部したので、これで八名。ようやく普通のチームとして試合に出られることになりました。しかも三人ともこのマイナー競技の経験者ということで非常に歓迎されました。



私がいた頃にはボールの数が足りないなど備品の面でも苦労しましたが、そういう意味でも先輩の活動を後押ししていきたいと思えます。

数年前にはOB会が立ち上げられ、現在も市民大会等に「札幌大OB」チームとして出場しています。仕事が忙しく全真揃っての練習はできませんが、それぞれ現役時代の貯金を頼りに楽しくやっています。現役生との交流も年に何度か行っています。

大問題です。しかし、出席しないと単位が取れない。というわけで、毎年キノコ狩りが終わったその足で先輩に車で釧路や室蘭に輸送していただきました。夜中高速道路を爆走するトラックの横をミニ力で駆け抜けたことは恐怖ではありますが、今では良い思い出です。

翌年には先輩が一気に五名入部。活動にも勢いがつき、入部した時には四部で活動していましたが卒業時には一部に昇格していました。女子部も立ち上げられ、今では立派な部活動に成長しました。

ハンドボール部



仲間と共に、それぞれの時代で活躍していた様子が伝わってきました。



オープンキャンパスの取材から

ずんがりセツルメント

今年で、五十周年になる歴史ある子ども会サークル。
各地域にある五つの子ども会に参加し、毎週土曜日の活動や季節ごとの行事の運営を行っています。部員は八十名で、一人一人にセツラーネームという呼び名を持ち、子どもたちから親しみを込めて呼ばれていきます。
サークル室には、時々卒業した先輩が来て、活動を見に来たり、安全面の講習をしてくれたりするなど、もつながりがあるサークルです。



ずんがりセツルメント
〈代表〉2年生 鈴木さん
(基礎学習開発専攻)
【セツラーネーム】ジェット

女子バドミントン部
〈部長〉3年生 松浦さん
(基礎学習開発専攻)



バドミントン部

活動は、週五回行い、一年間に五、六回の大会に出場するそうです。
OB・OG会には、四年生の部長とマネージャーが参加して、一年間の活動を報告しています。全員で分担して年賀状を出すなど、今も先輩たちとのつながりを大切にしています。
また、初打ちに来てくれる先輩がいたり、時には教え子を連れてきて一緒に練習をしたりすることもあるそうです。

